

小江戸・川越の町並み

新宿から 50 分ほどの埼玉県川越市は、人口 33 万人のベッドタウンである。かつて川越城の城下町に江戸を伝える蔵が建ち並ぶ小江戸と呼ばれる町並みが有名であり、駆け足で訪ねてみた。下の写真は一番街の町並みであり、多くの観光客が歩いていた。通りには蔵造りの店舗「店蔵」が軒を連ねており、昔の面影を町並みから味わうことができる。「時の鐘」は明治の大火のあとに再建されたもので、いまも市民に時を知らせているという。



「NPO 法人川越蔵の会」の会員によるレポートによると、蔵造りは江戸で生まれた防火建築であるが、関東大震災で壊滅的な被害を受け、高度成長の過程で消滅した。川越は戦災にあわず、東京の伝統的な景観を継承している町として注目を集めるようになった。いまや小江戸の町並みを残す都市として、観光スポットになっている。店蔵の隣にある洋館（銀行）もなかなか風格があった。

駆け足で歩いて気になったのは、狭い道を車が渋滞しながら走っていたことだ。せっかくの町並みを車を気にせずに歩きたかった。観光地としては車対策に「勘考」が求められよう。



(11月23日 記)